

プログラム

会長講演

PL 会長講演

11月21日(木) 11時00分～11時50分 (第1会場 1F 多目的展示ホール (A))
座長: 岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野)

若年性認知症の臨床・画像・病理

川勝 忍

福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座

プレナリーセッション

PS1 プレナリーセッション1

11月21日(木) 13時00分～13時50分 (第1会場 1F 多目的展示ホール (A))
座長: 新井 哲明 (筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)
笠貫 浩史 (聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室)

Unravelling the Effects of TAR DNA Binding Protein 43 in Aging and Alzheimer's

Keith A. Josephs

Mayo Clinic, Rochester, Minnesota, USA

PS2 プレナリーセッション2

11月23日(土) 11時00分～11時50分 (第1会場 1F 多目的展示ホール (A))
座長: 村山 繁雄 (大阪大学大学院連合小児発達学研究科附属子どもの心の分子制御機構研究センターブレインバンク・バイオリソース部門/東京都健康長寿医療センター神経病理・高齢者ブレインバンク (クロスアポイント))

Update on Tau-related conditions

Gabor G. Kovacs

University of Toronto and University Health network, Toronto, Canada

特別講演

SL1 特別講演1

11月21日(木) 14時00分～14時50分 (第1会場 1F 多目的展示ホール (A))
座長: 川勝 忍 (福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座)

疾患修飾薬のその先へ

下濱 俊

医療法人社団慈誠会慈誠会・練馬高野台病院

SL2 特別講演2

11月21日(木) 15時00分～15時50分 (第1会場 1F 多目的展示ホール (A))
座長: 朝田 隆 (メモリークリニックお茶の水)

認知症の画像診断の進歩

松田 博史

福島県立医科大学生体機能イメージング講座

SL3 特別講演 3

11月21日(木) 16時00分～16時50分 (第1会場 1F 多目的展示ホール (A))

座長: 森 啓 (長岡崇徳大学)

共生社会の実現を推進するための認知症基本法とこれからの認知症施策

栗田 主一

東京都健康長寿医療センター認知症未来社会創造センター

SL4 特別講演 4

11月22日(金) 13時00分～13時50分 (第1会場 1F 多目的展示ホール (A))

座長: 福井 俊哉 (三星会かわさき記念病院脳神経内科)

認知症診療・研究における神経心理学の役割

鈴木 匡子

東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学

SL5 特別講演 5

11月22日(金) 14時00分～14時50分 (第1会場 1F 多目的展示ホール (A))

座長: 岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野)

尊厳の保障

江澤 和彦

公益社団法人日本医師会

学術教育講演**EL1 学術教育講演 1**

11月21日(木) 9時00分～9時45分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))

座長: 石田 義則 (一般財団法人竹田健康財団竹田総合病院脳神経疾患センター脳神経内科)

筋萎縮性側索硬化症およびパーキンソン病関連疾患と認知症

金井 数明

福島県立医科大学医学部脳神経内科学講座

EL2 学術教育講演 2

11月21日(木) 9時55分～10時40分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))

座長: 古川 勝敏 (東北医科薬科大学医学部老年・地域医療学教室)

血管性アミロイドの基礎

北爪しのぶ

福島県立医科大学保健科学部臨床検査学科

EL3 学術教育講演 3

11月21日(木) 13時00分～13時45分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))

座長: 饗場 郁子 (国立病院機構東名古屋病院脳神経内科)

進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症をめぐる最近の進歩

下畑 享良

岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野

EL4 学術教育講演 4

11月21日(木) 13時55分～14時40分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))

座長: 羽生 春夫 (総合東京病院認知症疾患研究センター)

認知症の診療における画像診断の役割

櫻井 圭太

国立長寿医療研究センター放射線診療部

EL5 学術教育講演 5

11月21日(木) 15時00分～15時45分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))

座長: 長濱 康弘 (かわさき記念病院)

行動神経学

船山 道隆

足利赤十字病院神経精神科

EL6 学術教育講演 6

11月21日(木) 15時55分～16時40分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))

座長: 内原 俊記 (沖縄県立中部病院ハワイ大学卒後医学臨床研修事業団ディレクター)

法医解剖例から見た高齢者の臨床神経病理

西田 尚樹

富山大学学術研究部医学系法医学講座

EL7 学術教育講演 7

11月22日(金) 9時00分～9時45分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))

座長: 林 博史 (福島県立医科大学保健科学部作業療法学科)

地域に根差す認知症カフェ

武地 一

藤田医科大学医学部認知症・高齢診療科

EL8 学術教育講演 8

11月22日(金) 9時55分～10時40分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))

座長: 前島伸一郎 (国立長寿医療研究センター長寿医療研修センター)

やさしさを伝えるケア技術“ユマニチュード”により認知症症状の悪化を回避する

伊東 美緒

群馬大学大学院保健学研究科

EL9 学術教育講演 9

11月22日(金) 13時00分～13時45分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))

座長: 伊関 千書 (東北大学高次機能障害学)

脳循環代謝と認知症: 脳の水の役割

山田 茂樹

名古屋市立大学脳神経外科学講座

EL10 学術教育講演 10

11月22日(金) 13時55分～14時40分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))
座長: 荒井 啓行 (東北大学)

ARIA リスクとしての脳アミロイド血管症

富本 秀和

三重大学大学院脳神経内科

EL11 学術教育講演 11

11月22日(金) 15時00分～15時45分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))
座長: 藤城 弘樹 (名古屋大学大学院医学系研究科精神医学)

認知症と鑑別すべき老年期精神疾患

入谷 修司

桶狭間病院藤田こころケアセンター附属脳研究所

EL12 学術教育講演 12

11月22日(金) 15時55分～16時40分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))
座長: 古和 久朋 (神戸大学大学院保健学研究科)

認知症予防に向けての最近のトピックス

三村 將

慶應義塾大学予防医療センター

【シンポジウム】

シンポジウム 1 認知症治療薬の最新動向

11月21日(木) 8時50分～10時50分 (第1会場 1F 多目的展示ホール (A))
座長: 岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野)
岩田 淳 (東京都健康長寿医療センター)

- SY1-1 抗MTBR タウ抗体 E2814 の顕性遺伝アルツハイマー病におけるバイオマーカー効果
エーザイ株式会社 堀江 勤太
- SY1-2 Advances in our Understanding of Amyloid Plaque Clearing Therapies
Eli Lilly and Company John Sims
- SY1-3 Design of Phase 2 Study to Assess the Safety and Efficacy of BIIB080 in Subjects with early Alzheimer's disease
Biogen Szofia Bullain
- SY1-4 Brainshuttle™ AD - a Phase Ib/IIa study of trontinemab in people with Alzheimer's disease
F. Hoffmann-La Roche Ltd. Luka Kulic
- SY1-5 Phosphorylated Tau Targeted Passive & Active Immunotherapy in Alzheimer's Disease
Janssen Pharmaceutica NV, a Johnson & Johnson company Beerse, Belgium Lennert Steukers

シンポジウム 2 アルツハイマー病 (型認知症) の心理的サポートと心理療法

11月21日(木) 9時00分～10時40分 (第2会場 1F 多目的展示ホール (B))
座長: 繁田 雅弘 (栄樹庵診療所/東京慈恵会医科大学)
扇澤 史子 (東京都健康長寿医療センター臨床心理科)

- SY2-1 認知症に関わる先入観の修正を目指した説明～価値ある認知症医療・ケアとなるために～
三豊・観音寺市医師会三豊市立西香川病院 大塚 智丈
- SY2-2 病識に合わせた治療同意を考える
栄樹庵診療所／東京慈恵会医科大学 繁田 雅弘
- SY2-3 心理療法が目指すこと一回想法や本人交流会などのグループセラピーを中心に
東京都健康長寿医療センター臨床心理科 扇澤 史子
- SY2-4 残存機能に焦点を当てた心理支援：ノーマライゼーションの具現化を目指して
上智大学総合人間科学部心理学科 松田 修

シンポジウム 3 血管障害からみた認知症の発症リスク低減とその社会実装

11月21日（木） 9時00分～10時40分（第3会場 1F コンベンションホール（A））

座長：小原 知之（九州大学病院精神科）

篠原もえ子（金沢大学脳神経内科）

- SY3-1 血管障害危険因子の認知症に及ぼす影響
東京医科大学高齢総合医学分野 清水聰一郎
- SY3-2 脳アミロイド血管症と認知機能障害～脳小血管病からみた認知症発症リスク低減～
三重大学医学部脳神経内科 新堂 晃大
- SY3-3 地域高齢住民における灰白質萎縮および白質病変が認知症発症に及ぼす影響：久山町研究
九州大学大学院医学研究院精神病態医学 中澤 太郎
- SY3-4 認知症の発症リスク低減を社会実装する際の課題：プライマリ・ヘルス・ケアの視点から
東京都健康長寿医療センター認知症未来社会創造センター 粟田 圭一

シンポジウム 4 認知症疾患の生化学解析，クライオ電顕など

11月21日（木） 9時00分～10時40分（第5会場 3F 中会議室（A・B））

座長：長谷川成人（東京都医学総合研究所認知症プロジェクト）

久永 眞市（東京都立大学理学研究科生命科学専攻神経分子機能研究室）

- SY4-1 クライオ電顕による立体構造解析の発展と現在
高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所構造生物学研究センター 千田 俊哉
- SY4-2 病理構成タンパク質の構造を基にした神経変性疾患分類
東京都医学総合研究所脳・神経科学研究分野認知症プロジェクト 樽谷 愛理
- SY4-3 人工変異 tau を用いた tau strain 識別と凝集阻害の試み
東京都医学総合研究所脳・神経科学研究分野認知症プロジェクト 下中翔太郎
- SY4-4 クライオ電子線トモグラフィ法によるアミロイド線維の in situ 構造解析
理化学研究所生命機能科学研究センタータンパク質機能・構造研究チーム 山形 敦史

シンポジウム 5 休眠・冬眠研究の老化・認知症研究の最前線と老化・認知症病態への応用

11月21日（木） 9時00分～10時40分（第6会場 4F プレゼンテーションルーム）

座長：長谷川隆文（NHO 仙台西多賀病院脳神経内科）

武田 朱公（大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学）

- SY5-1 哺乳類の冬眠研究の現在地点
北海道大学低温科学研究所 山口 良文
- SY5-2 冬眠の臨床応用を目指して：マウスを用いた冬眠研究
理化学研究所生命機能科学研究センター冬眠生物学研究チーム 砂川玄志郎
- SY5-3 感覚創薬による人工冬眠・生命保護状態の誘導と認知症治療法
関西医科大学附属生命医学研究所 小早川 高
- SY5-4 超硫黄分子に依存した哺乳類のミトコンドリアエネルギー代謝機構の解明
秋田大学感染統括制御・疫学・分子病態研究センター 松永 哲郎

シンポジウム6 認知症研究への患者・市民参画 (Patient and Public Involvement : PPI)

11月21日(木) 13時00分～14時40分 (第2会場 1F 多目的展示ホール (B))

座長: 新美 芳樹 (東京大学大学院医学系研究科医療経済政策学)

大田 秀隆 (秋田大学高齢者医療先端研究センター)

- SY6-1 AMEDにおける患者・市民参画 (PPI): 医療研究開発の「社会共創」に向けて
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 浅野 武夫
- SY6-2 認知症研究における患者参画 ～脱「貴重なご意見ありがとうございました」に向けて～
一般社団法人CSRプロジェクト 桜井なおみ
- SY6-3 認知症研究開発の推進等における患者・市民参画の現状～国際的な動向を踏まえて～
特定非営利活動法人日本医療政策機構 森口 奈菜
- SY6-4 認知症研究への患者・市民参画～当事者・家族等から～
公益社団法人認知症の人と家族の会 鎌田 松代
- SY6-5 当事者の立場からみた認知症研究への参画の課題
まほろば倶楽部 平井 正明
- SY6-6 認知症研究への患者・市民参画～研究者の立場から～
東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野 岩坪 威

シンポジウム7 認知症の脳内ネットワーク研究の現在地

11月21日(木) 13時00分～14時40分 (第3会場 1F コンベンションホール (A))

座長: 渡辺 宏久 (藤田医科大学医学部脳神経内科学)

鈴木 正彦 (東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座)

- SY7-1 神経変性性認知症の病態と脳内ネットワーク
藤田医科大学医学部脳神経内科学 渡辺 宏久
- SY7-2 病理から考える認知症の脳内ネットワーク
愛知医科大学加齢医科学研究所/名古屋大学神経内科 陸 雄一
- SY7-3 機能的MRIから考える脳内ネットワーク
藤田医科大学医学部脳神経内科学 川畑 和也
- SY7-4 PETから考える脳内ネットワーク
量子科学技術研究開発機構 遠藤 浩信
- SY7-5 拡散MRIによるアルツハイマー病における脳内ネットワーク変性の評価
順天堂大学大学院医学研究科放射線診断学 鎌形 康司

シンポジウム8 脳血管と認知症

11月21日(木) 13時00分～14時40分 (第5会場 3F 中会議室 (A・B))

座長: 新堂 晃大 (三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学)

眞木 崇州 (京都大学大学院医学研究科臨床神経学)

- SY8-1 小血管性認知症の画像と病理
三重大学医学部脳神経内科 石川 英洋
- SY8-2 脳血管内皮型APP770に着目したCAAモデルマウスの開発
福島県立医科大学 飯島 順子
- SY8-3 遺伝性脳小血管病CADASILに対する最新の治療戦略
国立循環器病研究センター脳神経内科 齊藤 聡
- SY8-4 脳小血管病におけるmatrisome蓄積を中心とした加齢性変化と治療戦略
新潟大学脳研究所分子神経疾患資源解析学分野 加藤 泰介

シンポジウム 9 脳内ドラッグデリバリーシステム技術を基盤とした神経疾患に対する新規治療戦略

11月21日(木) 13時00分～14時40分 (第6会場 4F プレゼンテーションルーム)

座長: 岡村 信行 (東北医科薬科大学医学部薬理学教室)

野中 隆 (東京都医学総合研究所)

SY9-1 脳内に薬剤を送達するナノマシン

東京工業大学物質理工学院 安楽 泰孝

SY9-2 マイクロバブルと超音波を利用した脳内薬物デリバリー法の開発

帝京大学薬学部 鈴木 亮

SY9-3 非侵襲的な脳脊髄疾患治療に資する Nose-to-Brain 型核酸ナノ DDS の開発

徳島大学大学院医歯薬学研究部薬物治療学分野/徳島大学大学院医歯薬学研究部 DDS 研究センター 金沢 貴憲

SY9-4 経鼻投与を基盤とした認知症予防薬・診断薬の開発

大阪公立大学大学院医学研究科 富山 貴美

シンポジウム 10 認知症の人のエンドオブライフの医療とケアの課題を考える

11月21日(木) 15時00分～16時40分 (第2会場 1F 多目的展示ホール (B))

座長: 井藤 佳恵 (東京都健康長寿医療センター研究所)

成本 迅 (京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学)

SY10-1 哲学の視点からみた認知症の人のエンドオブライフと意思決定支援

東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣講座 早川 正祐

SY10-2 在宅診療における認知症のある人のエンドオブライフ

医療法人すずらん会たろうクリニック 内田 直樹

SY10-3 介護施設における認知症の人のエンドオブライフと ACP

社会福祉法人愛光園高齢福祉事業部介護老人保健施設相生 山本 梨恵

SY10-4 認知症の人とその家族のエンドオブライフケア

帝京科学大学医療科学部看護学科 大西奈保子

シンポジウム 11 Lewy 小体病の多彩な病態に迫る

11月21日(木) 15時00分～16時40分 (第3会場 1F コンベンションホール (A))

座長: 波田野 琢 (順天堂大学大学院医学研究科神経学)

前田 哲也 (岩手医科大学医学部内科学講座脳神経内科・老年科分野)

SY11-1 α -シヌクレインと Lewy 小体病

順天堂大学大学院医学研究科神経学 波田野 琢

SY11-2 Lewy 小体病の病理学

東京慈恵会医科大学附属第三病院脳神経内科 仙石 鍊平

SY11-3 Lewy 小体病の診断と治療

上用賀世田谷通りクリニック 織茂 智之

シンポジウム 12 遺伝性アルツハイマー病と DIAN 研究

11月21日(木) 15時00分～16時40分 (第5会場 3F 中会議室 (A・B))

座長: 池内 健 (新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター)

関島 良樹 (信州大学医学部脳神経内科, リウマチ・膠原病内科)

SY12-1 Dominantly Inherited Alzheimer's disease as model for preventing Alzheimer's disease

Dominantly Inherited Alzheimer Network ; Washington University School of Medicine Eric McDade

SY12-2 DIAN-Japan 観察研究

新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター 池内 健

SY12-3 DIAN-TU 研究

東京大学大学院医学系研究科医療経済政策学/東京大学医学部附属病院早期・探索開発推進室 新美 芳樹

SY12-4 遺伝性認知症と HED-TRC 研究

信州大学医学部脳神経内科, リウマチ・膠原病内科 関島 良樹

シンポジウム 13 アルツハイマー病疾患修飾薬の実臨床

11月22日(金) 9時00分~10時40分 (第1会場 1F 多目的展示ホール (A))

座長: 井原 涼子 (東京都健康長寿医療センター脳神経内科)

清水聡一郎 (東京医科大学高齢総合医学分野)

SY13-1 早期に疾患修飾薬投与を開始した施設における近隣医療機関との連携

東京都健康長寿医療センター脳神経内科 井原 涼子

SY13-2 2病院におけるレカネマブ投与体制の立ち上げを経験して

東京医科大学高齢総合医学分野 稲川 雄太

SY13-3 北海道における疾患修飾薬の現状

砂川市立病院 内海久美子

SY13-4 離島におけるアルツハイマー病疾患修飾薬の実臨床について

医療法人たぶの木うむやすみьяあす・ん診療所/沖縄県認知症疾患医療センター 竹井 太

シンポジウム 14 アミロイド, タウ, シヌクレインの病態研究の展望

11月22日(金) 9時00分~10時40分 (第2会場 1F 多目的展示ホール (B))

座長: 小野賢二郎 (金沢大学医薬保健研究域脳神経内科学)

服部 信孝 (順天堂大学医学部脳神経内科)

SY14-1 高速原子間力顕微鏡を用いた1分子観察による病態蛋白凝集体の構造動態解析

金沢大学ナノ生命科学研究所 中山 隆宏

SY14-2 RT-QuIC からみえてきたシヌクレイン凝集体の多様性と病的意義

順天堂大学医学部脳神経内科 服部 信孝

SY14-3 アミロイドβ凝集体の病的意義と臨床への応用

金沢大学医薬保健研究域脳神経内科学 小野賢二郎

SY14-4 体液中のタウ微小管結合領域は脳内タウ病理を反映する

エーザイ株式会社 堀江 勤太

SY14-5 メタアグリゲートと病態蛋白の学術変革

京都大学農学研究科食品生物科学専攻 村上 一馬

シンポジウム 15 認知症脳病態 PET イメージングの現状と将来展望

11月22日(金) 9時00分~10時40分 (第3会場 1F コンベンションホール (A))

座長: 島田 齊 (新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター臨床機能脳神経学)

加藤 隆司 (国立長寿医療研究センター放射線診療部)

SY15-1 アミロイド PET 臨床実装で見えてきた課題

国立長寿医療研究センター放射線診療部 加藤 隆司

SY15-2 認知症検診へのアミロイド PET 利用の課題について

新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター臨床機能脳神経学 島田 齊

SY15-3 認知症における炎症 PET イメージング研究の動向

奈良県立医科大学精神医学教室 松岡 究

SY15-4 タウ・シヌクレイン PET の開発とその現況

量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究センター 互 健二

シンポジウム 16 高齢者医療に活かす TMS 研究の現在・未来

11月22日(金) 9時00分~10時40分 (第5会場 3F 中会議室(A・B))

座長: 笠貫 浩史(聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室)

西尾 慶之(大阪大学行動神経学・神経精神医学寄附講座)

SY16-1 高齢者医療現場における TMS の可能性【シンポジウムの introduction】

聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室 笠貫 浩史

SY16-2 4連発磁気刺激法を用いたアルツハイマー病のシナプス可塑性障害の検出とその有用性

鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野 村上 丈伸

SY16-3 MCI と rTMS

順天堂大学大学院医学研究科リハビリテーション医学 高倉 朋和

SY16-4 高齢者うつ病と rTMS 療法

大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室 高橋 隼

シンポジウム 17 参加型 認知症 CPC

11月22日(金) 9時00分~10時40分 (第6会場 4F プレゼンテーションルーム)

座長: 高尾 昌樹(国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部・総合内科)

長田 高志(国立精神・神経医療研究センター病院総合内科)

SY17-1 上肢の動かしづらさで発症し、緩徐に高次脳機能障害が出現した 79 歳剖検例(臨床)

国立精神・神経医療研究センター病院脳神経内科 小田 真司

SY17-2 上肢の動かしづらさで発症し、緩徐に高次脳機能障害が出現した 79 歳剖検例(病理)

脳神経内科はつたクリニック 初田 裕幸

SY17-3 症例 2 の臨床呈示

脳神経筋センターよしみず病院脳神経内科 川井 元晴

SY17-4 症例 2 の神経病理呈示

山口大学大学院医学系研究科臨床神経学 佐藤 亮太

シンポジウム 18 軽度認知障害(MCI)の診療と認知症予防

11月22日(金) 13時00分~14時40分 (第2会場 1F 多目的展示ホール(B))

座長: 木村 成志(大分大学医学部脳神経内科)

太田 康之(山形大学医学部内科学第三講座神経学分野)

SY18-1 MCI の診断とフレイルとの関連

山形大学医学部内科学第三講座神経学分野 太田 康之

SY18-2 MCI における生活習慣因子と脳内アミロイド蓄積の関連

大分大学医学部脳神経内科 木村 成志

SY18-3 認知症予防を目指した多因子介入研究(J-MINT)と社会実装

国立長寿医療研究センター 櫻井 孝

SY18-4 MCI 診療と認知症予防

金沢大学医学系脳神経内科学 篠原もえ子

SY18-5 認知症の非薬物予防療法

国立長寿医療研究センターもの忘れセンター 佐治 直樹

シンポジウム 19 FTLD —右側頭葉優位萎縮例の位置付けをめぐって

11月22日(金) 13時00分~14時40分 (第3会場 1F コンベンションホール(A))

座長: 池田 学(大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室)

川勝 忍(福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座)

SY19-1 右側頭葉優位萎縮例の位置付けをめぐり国際的な動き

大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室 池田 学

- SY19-2 右側頭葉優位萎縮例の神経病理学的多様性
山形大学医学部精神医学講座 小林 良太
- SY19-3 右側頭葉優位萎縮例の症候学的多様性
東京慈恵会医科大学精神医学講座 品川俊一郎
- SY19-4 FTLD-Jにおける右側頭葉優位萎縮例（遺伝子検索を中心に）
大阪大学大学院医学系研究科精神医学 森 康治

シンポジウム 20 自己免疫性脳炎・関連疾患—見逃してはならない認知症との鑑別疾患—

11月22日（金） 13時00分～14時40分（第5会場 3F 中会議室（A・B））

座長：木村 暁夫（岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野）

田中 恵子（福島県立医科大学多発性硬化症治療学講座／
新潟大学脳研究所モデル動物開発分野）

- SY20-1 自己免疫性脳炎と認知症：誤診を防ぐための知識
岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野 大野 陽哉
- SY20-2 認知症に類似する自己免疫性脳炎および関連疾患—鑑別の要点と治療—
日本大学医学部内科学系神経内科学分野 原 誠
- SY20-3 抗LGI-1脳炎と認知機能障害
鹿児島市立病院脳神経内科 渡邊 修
- SY20-4 炎症性脳アミロイド血管症とアミロイド関連画像異常ARIA
三重大学医学部脳神経内科 新堂 晃大

シンポジウム 21 ApoEの病的・生理的役割再考（ディベートセッション）

11月22日（金） 13時00分～14時40分（第6会場 4F プレゼンテーションルーム）

座長：里 直行（国立長寿医療研究センター）

齊藤 貴志（名古屋市立大学脳神経科学研究所）

- SY21-1 APOEと β アミロイド凝集、蓄積、伝播
国立精神神経医療研究センター神経研究所疾病研究第四部 橋本 唯史
- SY21-2 APOEのゲノム・トランスクリプトーム：レアミスセンスバリエーションと脳内遺伝子発現
新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野 宮下 哲典
- SY21-3 ヒトアストロサイトモデルから紐解くApoE機能
慶應義塾大学殿町先端研究教育連携スクエア 渡部 博貴
- SY21-4 アルツハイマー病におけるタウとapoEの役割：新たな「multi hit」仮説の視点から
東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野 山田 薫
- SY21-5 APOEの保護作用に着目したアルツハイマー病の病態解明、治療薬開発
国立長寿医療研究センター 篠原 充

シンポジウム 22 実用化を見据えた体液バイオマーカー開発の進歩

11月22日（金） 15時00分～16時40分（第1会場 1F 多目的展示ホール（A））

座長：池内 健（新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター）

徳田 隆彦（量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究部）

- SY22-1 アルツハイマー病の血液バイオマーカー：リン酸化タウ update
量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究部 徳田 隆彦
- SY22-2 脳脊髄液バイオマーカー研究の進歩
新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター遺伝子機能解析学 春日 健作
- SY22-3 アルファシヌクレイノパチーにおけるアルファシヌクレインシードアッセイの有用性
順天堂大学医学部神経学講座 奥住 文美
- SY22-4 地域住民コホートにおける血液バイオマーカーの活用
大分大学医学部脳神経内科 木村 成志

SY22-5 認知症診療における血漿バイオマーカーの有用性と展望

慶應義塾大学医学部神経内科／メモリーセンター 伊東 大介

シンポジウム 23 高齢者の非アルツハイマー型認知症の臨床と病理

11月22日(金) 15時00分～16時40分 (第2会場 1F 多目的展示ホール(B))

座長: 吉田 真理 (愛知医科大学加齢医科学研究所)

山田 正仁 (国家公務員共済組合連合会九段坂病院内科 (脳神経内科))

SY23-1 神経原線維型変化型老年期認知症

医療法人さわらび会福祉村病院神経病理研究所 金田 大太

SY23-2 Argyrophilic grain disease の臨床と病理

鳥取大学医学部脳神経医科学講座神経病理学分野 足立 正

SY23-3 Limbic-predominant age-related TDP-43 encephalopathy の臨床と病理

山形大学医学部精神医学講座 小林 良太

SY23-4 高齢者の Lewy 小体病

東京都健康長寿医療センター研究所高齢者バイオリソースセンター・神経病理／

徳島大学病院脳神経内科 松原 知康

シンポジウム 24 認知症の身体症状を考える

—自律神経不全, 嚥下障害, 転倒・骨折, 摂食・食行動異常—

11月22日(金) 15時00分～16時40分 (第3会場 1F コンベンションホール(A))

座長: 渡辺 宏久 (藤田医科大学医学部脳神経内科学)

品川俊一郎 (東京慈恵会医科大学精神医学講座)

SY24-1 自律神経症状の病態と治療

浜松医科大学医学部附属病院脳神経内科 中村 友彦

SY24-2 認知症高齢者の嚥下障害への対応

大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学講座 野原 幹司

SY24-3 認知症患者における転倒・骨折のエビデンスとマネジメント

国立病院機構東名古屋病院 饗場 郁子

SY24-4 認知症の食行動変化の病態と対応

東京慈恵会医科大学精神医学講座 品川俊一郎

シンポジウム 25 若年性認知症の診断・治療・支援

11月22日(金) 15時00分～16時40分 (第5会場 3F 中会議室(A・B))

座長: 新井 哲明 (筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)

谷向 知 (愛媛大学大学院医学系研究科老年精神地域包括ケア学)

SY25-1 若年性認知症に関する全国疫学調査で得られた実態

東京都健康長寿医療センター研究所 枝広あや子

SY25-2 若年性認知症の診断と継続支援

公益財団法人浅香山病院精神科 繁信 (釜江) 和恵

SY25-3 若年性認知症の非薬物療法—前頭側頭葉変性症に対する運動療法—

筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学 根本みゆき

SY25-4 若年性認知症の支援と課題と展望

愛媛大学大学院医学系研究科老年精神地域包括ケア学 谷向 知

シンポジウム 26 ダイバーシティ推進委員会シンポジウム

「認知症医療・介護のためのキャリア形成・ダイバーシティ推進 2024」

11月22日（金） 15時00分～16時40分（第6会場 4F プレゼンテーションルーム）

座長：中西 亜紀（大阪公立大学大学院生活科学研究科）

松村美由起（東京女子医科大学附属成人医学センター）

- SY26-1 認知症支援体制の構築について：精神科医の立場から見た現状と課題
東京都健康長寿医療センター研究所福祉と生活ケア研究チーム 井藤 佳恵
- SY26-2 認知症ケアの現状と課題：人材育成という課題解決のための方策
大阪公立大学大学院生活科学研究科生活科学論研究室 岡田 進一
- SY26-3 認知症の専門医育成について～若手医師への期待～
横浜市立脳卒中・神経脊椎センター臨床研究部 秋山 治彦
- SY26-4 認知症の研究者育成について～若手研究者への期待～
東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室 富田 泰輔

シンポジウム 27 近未来の認知症診療

11月23日（土） 9時00分～10時40分（第1会場 1F 多目的展示ホール（A））

座長：武田 朱公（大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学）

井上 治久（京都大学 iPS 細胞研究所）

- SY27-1 近未来の認知症診断
量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究センター 樋口 真人
- SY27-2 近未来の認知症診療（抗アミロイド抗体関連）
金沢大学医薬保健研究域脳神経内科学 小野賢二郎
- SY27-3 近未来の認知症創薬戦略
東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室 富田 泰輔
- SY27-4 加速する AI 革新と医療 DX による社会実装
フューチャー株式会社 中元 淳

シンポジウム 28 認知症病態を可視化する PET プローブ開発の最前線

11月23日（土） 9時00分～10時40分（第2会場 1F 多目的展示ホール（B））

座長：岡村 信行（東北医科薬科大学医学部薬理学教室）

田代 学（東北大学先端量子ビーム科学研究センター核医学研究部）

- SY28-1 SMBT-1 PET を用いた反応性アストロサイトイメージングの臨床有用性
東北大学先端量子ビーム科学研究センター核医学研究部 田代 学
- SY28-2 ミクログリアを可視化する PET イメージングの開発
国立長寿医療研究センター研究所認知症先進医療開発センター脳機能画像診断開発部 木村 泰之
- SY28-3 α シヌクレインの PET イメージング
量子科学技術研究開発機構 遠藤 浩信
- SY28-4 TDP-43/TMEM106B イメージングの可能性
東北医科薬科大学医学部薬理学 原田 龍一

シンポジウム 29 MCI-LB 診断の課題と展望

11月23日（土） 9時00分～10時40分（第3会場 1F コンベンションホール（A））

座長：藤城 弘樹（名古屋大学大学院医学系研究科精神医学）

池田 学（大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室）

- SY29-1 MCI-LB の病理学的背景
愛知医科大学加齢医科学研究所 岩崎 靖

- SY29-2 孤発性 RBD の MCI
獨協医科大学病院睡眠医療センター／脳神経内科 宮本 雅之
- SY29-3 PD-MCI とバイオマーカー
名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学 勝野 雅央
- SY29-4 MCI due to AD を踏まえた MCI-LB の特徴と課題
大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター 鐘本 英輝

シンポジウム 30 早期 AD の診断

- 11月23日(土) 9時00分～10時40分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))
座長：森 悦朗 (大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学)
松田 実 (清山会医療福祉グループいずみの杜診療所)
- SY30-1 疾患修飾薬を見据えた早期アルツハイマー病診断における神経心理とバイオマーカー検査
東京都健康長寿医療センター脳神経内科 井原 涼子
- SY30-2 健忘の鑑別診断
大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学 森 悦朗
- SY30-3 非定型アルツハイマー病の臨床
山形大学医学部精神医学講座 小林 良太
- SY30-4 レカネマブ時代のアルツハイマー診療
清山会医療福祉グループいずみの杜診療所 松田 実

シンポジウム 31 DMT の新時代を迎え、認知症疾患医療センターの立ち位置

- 11月23日(土) 9時00分～10時40分 (第5会場 3F 中会議室 (A・B))
座長：内海久美子 (砂川市立病院認知症疾患医療センター)
栗田 主一 (東京都健康長寿医療センター認知症未来社会創造センター)
- SY31-1 抗 Aβ 抗体薬の実臨床への導入を踏まえた認知症医療提供体制の整備について
東京都健康長寿医療センター認知症未来社会創造センター 栗田 主一
- SY31-2 当センターの抗アミロイド抗体療法の実施状況と課題
東京都健康長寿医療センター精神科 古田 光
- SY31-3 疾患修飾薬の登場と地域医療、医師不足地域での問題
三重大学医学部脳神経内科 新堂 晃大
- SY31-4 疾患修飾薬の時代の連携型認知症疾患医療センターの役割について
医療法人藤本クリニック／連携型認知症疾患医療センター 藤本 直規

シンポジウム 32 神経科学研究にヒト検体を活用することについて

- 11月23日(土) 9時00分～10時40分 (第6会場 4F プレゼンテーションルーム)
座長：齊藤 祐子 (東京都健康長寿医療センター研究所神経病理学研究チーム)
木下 彩栄 (京都大学医学部人間健康科学系専攻先端基盤看護科学講座在宅医療・認知症学分野)
- SY32-1 基礎研究においてヒト検体を用いる意義
東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室 堀 由起子
- SY32-2 患者脳から紐解く神経疾患：ブレインバンクを活用したデータ駆動型研究
国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第四部 間野 達雄
- SY32-3 ヒト検体を利用した認知症タンパク質翻訳後修飾解析
公益財団法人東京都医学総合研究所脳・神経科学研究分野 亀谷富由樹
- SY32-4 ヒト剖検脳のゲノム・トランスクリプトーム・プロテオーム解析
新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野 宮下 哲典

シンポジウム 33 iNPH の鑑別／併存診断と脳神経外科医との診療連携

11月23日(土) 13時00分～14時40分 (第1会場 1F 多目的展示ホール(A))

座長：数井 裕光(高知大学医学部神経精神科学講座)

品川俊一郎(東京慈恵会医科大学精神医学講座)

- SY33-1 特発性正常圧水頭症と類似疾患との鑑別・併存アルゴリズム
東北大学大学院高次機能障害学 伊関 千書
- SY33-2 認知症診療医が知っておくべきシャント術・管理のエッセンス
順天堂大学医学部脳神経外科 中島 円
- SY33-3 タップテストの多様性と推奨版ビデオ作成と公開
大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター 鐘本 英輝
- SY33-4 日常診療に役立つ SINPHONI からのエビデンス
大阪大学大学院連合小児発達学研究所行動神経学 森 悦朗
- SY33-5 脳神経外科施設との診療連携向上に役立つ知見 —全国 iNPH 診療調査の結果から
高知大学医学部神経精神科学講座 数井 裕光

シンポジウム 34 共生社会の実現を推進するための認知症基本法への期待

11月23日(土) 13時00分～14時40分 (第2会場 1F 多目的展示ホール(B))

座長：中西 亜紀(大阪公立大学大学院生活科学研究科)

栗田 圭一(東京都健康長寿医療センター認知症未来社会創造センター)

- SY34-1 共生社会の実現を推進するための認知症基本法と国の基本計画の意義を考察する
厚生労働省老健局認知症総合戦略企画官 遠坂 佳将
- SY34-2 基本法を道標に「自分らしく生きる可能性を当事者本人とともに広げる」歩みを、ともに
一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ 藤田 和子
- SY34-3 当事者の立場から『共生社会の実現を推進するための認知症基本法』への期待
公益社団法人認知症の人と家族の会 鎌田 松代
- SY34-4 自治体における共生社会の実現を推進するための認知症基本法の意義
長崎県福祉保健部 新田 惇一
- SY34-5 認知症の人の意思を尊重する共生社会実現のために重要なこと
京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学 成本 迅
- SY34-6 総括：これからの認知症施策が目指す方向性
東京都健康長寿医療センター認知症未来社会創造センター 栗田 圭一

シンポジウム 35 慢性外傷性脳症 (chronic traumatic encephalopathy) : 最新の知見と我が国の課題

11月23日(土) 13時00分～14時40分 (第4会場 1F コンベンションホール(B))

座長：高畑 圭輔(国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構)

高尾 昌樹(国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部・総合内科)

- SY35-1 慢性外傷性脳症 (CTE) のタウ PET 所見
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 高畑 圭輔
- SY35-2 反復性軽度頭部外傷の長期脳構造変化；日常診療で用いる MRI 画像によるアプローチ
量子科学技術研究開発機構脳機能イメージング研究センター 宮田 真里
- SY35-3 慢性外傷性脳症モデルマウスを用いたタウオパチー病理の解明
東京大学薬学部機能病態学教室 木村 妙子
- SY35-4 慢性外傷性脳症 (chronic traumatic encephalopathy : CTE) の神経病理を中心に
国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部・総合内科 高尾 昌樹

シンポジウム 36 レビー小体病とアルツハイマー病の併存を考える

—抗 A β 抗体薬適用の可能性を見据えて—

11月23日(土) 13時00分～14時40分 (第5会場 3F 中会議室 (A・B))

座長: 小林 良太 (山形大学医学部精神医学講座)

平野 成樹 (千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学)

- SY36-1 レビー小体型認知症の臨床病理学的診断基準と臨床経過
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学 藤城 弘樹
- SY36-2 体液バイオマーカーからみたアルツハイマー病理合併レビー小体病
金沢大学医学系脳神経内科学 篠原もえ子
- SY36-3 レビー小体型認知症連続体におけるアミロイド PET 所見と認知機能の縦断的变化
山形大学医学部精神医学講座 小林 良太
- SY36-4 DLB の AD 病理による脳画像所見への影響
大分大学医学部脳神経内科 木村 成志
- SY36-5 モデル動物の解析からみた DLB 病理と AD 病理の関連性
東京都医学総合研究所脳・神経科学研究分野認知症プロジェクト 鈴掛 雅美

シンポジウム 37 オリゴデンドロサイトと認知症

11月23日(土) 13時00分～14時40分 (第6会場 4F プレゼンテーションルーム)

座長: 舟本 聡 (同志社大学大学院生命医科学研究科神経病理学)

安藤香奈絵 (東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻)

- SY37-1 オリゴデンドロサイトによる神経回路の同期性制御と病態
名古屋大学大学院医学系研究科分子細胞学 和氣 弘明
- SY37-2 オリゴデンドロサイトにおけるアルツハイマー病関連遺伝子の発現
新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野 宮下 哲典
- SY37-3 血管性認知障害における白質傷害に対するグリア細胞の二面的な制御
京都大学大学院薬学研究科生体機能解析学分野 白川 久志
- SY37-4 ミエリンの再生メカニズム
国立精神・神経医療研究センター神経研究所神経薬理研究部 村松里衣子

ミニシンポジウム

ミニシンポジウム 1 共生社会の実現に向けた新たな産官学連携

11月23日(土) 11時00分～11時50分 (第2会場 1F 多目的展示ホール (B))

座長: 岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野)

- MSY1-1 経産省が進める認知症分野の産官学の取組全体像について
経済産業省商務サービスグループヘルスケア産業課 橋本 泰輔
- MSY1-2 認知症の人と企業の共創 「当事者参画型開発」の実践について
株式会社日本総合研究所 紀伊 信之
- MSY1-3 当事者参画型開発の実践 ガスコンロに「認知症進行予防」の願いを込めて
西部ガス佐世保株式会社お客さま保安部 河野 雄彦
- MSY1-4 当事者参画型開発の実践 製品開発プロセス (における当事者の声), 製品の特長
リンナイ株式会社開発本部第二商品開発部 加藤 定基
- MSY1-5 認知症予防領域の産官学連携におけるアカデミアの活動
高知大学医学部神経精神科学講座 數井 裕光

ミニシンポジウム 2 TDP-43 プロテノパチースペクトラム：先達に聞く

11月23日（土） 11時00分～11時50分（第3会場 1F コンベンションホール（A））

座長：新井 哲明（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学）

MSY2-1 筋萎縮性側索硬化症とユビキチン陽性タウ陰性封入体

老年病研究所脳神経内科 岡本 幸市

MSY2-2 運動ニューロン疾患を伴う初老期認知症

大悟病院認知症疾患医療センター 三山 吉夫

MSY2-3 ユビキチン封入体を伴う葉性萎縮（FTLD-U）

東京都医学総合研究所・認知症プロジェクト 池田 研二

ミニシンポジウム 3 日常臨床で普及している MRI と脳血流 SPECT は アルツハイマー病の臨床診断にどこまで迫れるか？

11月23日（土） 11時00分～11時50分（第4会場 1F コンベンションホール（B））

座長：和田 健二（川崎医科大学認知症学）

MSY3-1 日常臨床で普及している MRI はアルツハイマー病の臨床診断にどこまで迫れるか？

国立長寿医療研究センター放射線診療部 櫻井 圭太

MSY3-2 アルツハイマー病の臨床診断における脳血流 SPECT の有用性と限界

大分大学医学部脳神経内科 木村 成志

ミニシンポジウム 4 独居認知症高齢者等の尊厳ある地域生活の継続をめざして

11月23日（土） 11時00分～11時50分（第5会場 3F 中会議室（A・B））

座長：鷺見 幸彦（認知症介護研究研修大府センター）

MSY4-1 独居認知症高齢者等の尊厳ある地域生活の継続をめざして：取り組むべき課題の整理

東京都健康長寿医療センター認知症未来社会創造センター 栗田 圭一

MSY4-2 今後の介護支援専門員が果たすべき役割を整理する

国際医療福祉大学大学院 石山 麗子

MSY4-3 成年後見制度改正を見据えた新・権利擁護支援モデル（フォロワーシステム）のあり方

日本司法支援センター本部 水島 俊彦

ミニシンポジウム 5 神経変性疾患における精神症状の先行：前駆症状か偶発合併か？

11月23日（土） 11時00分～11時50分（第6会場 4F プレゼンテーションルーム）

座長：内門 大丈（医療法人社団彰耀会メモリーケアクリニック湘南）

MSY5-1 タウオパチーにおける精神症状の出現とその先行

きのこエスポール病院精神科 横田 修

MSY5-2 いわゆる老年期精神病の背景病理と臨床対応

桶狭間病院藤田こころケアセンター附属脳研究所 入谷 修司

【学会賞受賞講演】

11月23日（土） 13時00分～14時00分（第3会場 1F コンベンションホール（A））

座長：小野寺 理（新潟大学脳研究所脳神経内科）

長谷川成人（東京都医学総合研究所認知症プロジェクト）

基礎 タウ伝播モデルマウスに関する研究

福岡大学薬学部免疫・分子治療学研究室 細川 雅人

臨床 レヴィ小体病やアルツハイマー病に合併する LATE の臨床病理学的特徴

大阪公立大学医学研究科脳病態生理学講座病因診断科学 上村麻衣子

市民公開講座

認知症に寄り添う地域を目指して

11月23日(土) 15時00分～17時00分 (第3会場 1F コンベンションホール (A))

1. 開会あいさつ

川勝 忍 (福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座)

2. 講演 認知症の画像診断の今とこれから

座長: 川勝 忍 (福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座)

演者: 松田 博史 (福島県立医科大学学生体機能イメージング講座)

3. 公開フォーラム 「私たちは認知症にどう向き合うべきか」

テーマ1: 認知症の啓発活動と共存社会の実現に向けて

テーマ2: 認知症治療に対する実情と課題

テーマ3: 認知症のリハビリテーションと予防

司会: 小林 直人 ((医) 湖山荘あずま通りクリニック)

パネリスト: 林 博史 (福島県立医科大学保健科学部作業療法学科)

深谷 和栄 (介護当事者)

佐藤 和子 (公益社団法人認知症の人と家族の会)

4. 閉会あいさつ

川勝 忍 (福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座)

研究者交流プログラム

ありえないことを考える—認知症研究に大切なこと—

11月21日(木) 17時40分～19時10分 (第6会場 4F プレゼンテーションルーム)

座長: 岡村 信行 (東北医科薬科大学医学部薬理学教室)

慶應義塾大学予防医療センター 三村 将

【ランチョンセミナー】

ランチョンセミナー 1 Exploring dementia's spillover beyond the cognitive domain

11月21日(木) 12時00分～12時50分 (第1会場 1F 多目的展示ホール (A))

共催: 大塚製薬株式会社 メディカル・アフェアーズ部

座長: 池田 学 (大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室)

演者: Gustavo Alva (ATP Clinical Research)

(概要) This seminar delve into the dementias and the most common form of dementia. Epidemiology, pathophysiology, and current hypotheses central to the disease state. The current continuum and the clinical manifestations associated with each stage. Current definitions of additional clinical factors including neuropsychiatric disturbances and their impact on the patient and the caregiver. Included discussion on pathophysiological mechanisms of agitation and how best to screen and address these problems including differentiating from delirium. Treating the illness dependent on the target symptoms.

ランチョンセミナー 2 作用機序から考えるレケンビの臨床応用

11月21日(木) 12時00分～12時50分 (第2会場 1F 多目的展示ホール (B))

共催: エーザイ株式会社/バイオジェン・ジャパン株式会社

座長: 岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野)

演者: 小野賢二郎 (金沢大学医薬保健研究域医学系脳神経内科学)

(概要) アルツハイマー病の病態においては、 $A\beta$ が凝集していく過程で多様な $A\beta$ 種が形成され、最終的に脳アミロイドとして蓄積した老人斑に毒性があるとされてきたが、近年、オリゴマーやプロトフィブリルのような早期・中間凝集体の毒性も重要視されている。この仮説に基づいて、抗プロトフィブリル抗体であるレケンビが開発され、昨年12月に本邦での使用が可能となった。本セミナーでは、レケンビの作用機序から想定される実臨床での有効性について論じ、また、臨床経験に基づくレケンビの適正使用と医療連携について考察する。

ランチョンセミナー 3 認知症治療における漢方薬への期待と展望

11月21日(木) 12時00分～12時50分 (第3会場 1F コンベンションホール (A))

共催: クラシエ薬品株式会社

座長: 乾 明夫 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科漢方薬理学講座)

1. 認知症アパシー症状に対する人参養栄湯の可能性

演者: 田上 真次 (医療法人社団澄鈴会箕面神経サナトリウム/大阪大学大学院医学系研究科)

2. 認知症治療における抑肝散加陳皮半夏の根拠と可能性

演者: 眞鍋 雄太 (神奈川歯科大学歯学部臨床先端医学系認知症医科学分野認知症・高齢者総合内科)

(概要) 昨年、アルツハイマー病疾患修飾薬治療がようやく始まり、対症療法から根本治療・発症予防へとシフトして行くことが期待される。しかし現況では認知症 BPSD への対応が必要な状況が続いている。とりわけ不食やアパシーといった陰性症状に有効な手立てが少ない。本セミナーではこれらに効果が期待できる漢方薬を紹介する。抑肝散および抑肝散加陳皮半夏は evidence の蓄積もあり、認知症疾患に伴う BPSD の治療に広く用いられるようになった。治療の選択肢が広がり喜ばしい一方、「安全そうだから取り敢えず投薬しておく」といった処方動機もあるかに思われる。漢方製剤の対象とすべき BPSD の内容を整理し、認知症疾患の治療戦略について概説する。

ランチオンセミナー 4

11月21日(木) 12時00分～12時50分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))

共催: PDR ファーマ株式会社

後援: 日本脳神経核医学研究会/日本核医学会

座長: 新井 哲明 (筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)

1. 抗 A β 薬時代の SPECT 検査の有用性

演者: 小林 良太 (山形大学医学部精神医学講座)

2. 抗 A β 薬の登場は何をもたらしたか?

演者: 岩田 淳 (東京都健康長寿医療センター)

(概要) 演者 1: 抗 A β 薬が登場し、認知症診療における核医学検査のオプションにアミロイド PET が加わったが、認知症の鑑別診断において SPECT 検査は、いまだ重要なオプションである。本講演では、抗 A β 薬時代における SPECT 検査の役割について、脳血流 SPECT を中心に症例を提示しながら議論したい。演者 2: 抗 A β 薬によるアルツハイマー病の治療が可能となって 1 年程が経過した。この新しい治療方法についてはその意義についての新しい理解、また導入に至るまでの新しい診療形態の整備が必要となった。本講演では抗 A β 薬療法の現在地と将来展望を考えていきたい。

ランチオンセミナー 5 行動・心理症状の発現リスク低減を重視した包括的治療

11月21日(木) 12時00分～12時50分 (第5会場 3F 中会議室 (A・B))

共催: 興和株式会社

座長: 和田 健二 (川崎医科大学認知症学)

演者: 数井 裕光 (高知大学医学部神経精神科学講座)

(概要) 行動・心理症状は、認知症の人の生活の質を低下させ、家族介護者の負担を増加させる临床上重要な症状である。行動・心理症状に対する治療においては、まず認知症の原因疾患の診断を早期に適切に行うことが重要である。そして診断時から家族に対する心理教育や生活支援を開始して、行動・心理症状の発現リスクを低減させることが重要である。本セミナーでは、原因疾患別の行動・心理症状の治療法、対応法を解説するとともに、最近我々が行ってきた活動や研究の結果についても紹介したいと考えている。

ランチオンセミナー 6 フレイルな認知症高齢者に対する漢方治療の可能性

11月21日(木) 12時00分～12時50分 (第6会場 4F プレゼンテーションルーム)

共催: 株式会社ツムラ

座長: 梅垣 宏行 (名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学)

演者: 水上 勝義 (筑波大学人間総合科学学術院)

(概要) フレイルは加齢に伴う様々な機能変化や生理的な予備能力の低下によって健康障害を招きやすい状態とされるが、認知症の進行とともにフレイルの出現率も高まることが報告されている。高齢者全般に抗精神病薬、抗うつ薬、ベンゾジアゼピン系睡眠薬などは、「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン」(日本老年医学会)では、「とくに慎重に投与すべき薬物」に挙げられているが、フレイルのみられる認知症高齢者ではとくに薬物有害事象に注意が必要である。そこで安全性に配慮した代替治療薬として漢方薬の可能性を検討したい。本セミナーでは、抑肝散、抑肝散加陳皮半夏、人參養榮湯をはじめ、フレイルな認知症高齢者の精神・行動症状に対する効果が報告されている漢方薬について紹介する。

ランチオンセミナー7 レケンビを投与する意義とは. 認知症医療の何が変わって何が変わらないのか?

11月22日(金) 12時00分~12時50分 (第1会場 1F 多目的展示ホール(A))

共催: エーザイ株式会社/バイオジェン・ジャパン株式会社

座長: 秋山 治彦 (横浜市立脳卒中・神経脊椎センター臨床研究部)

演者: 岩田 淳 (東京都健康長寿医療センター)

(概要) 早期アルツハイマー病に適応を有するレケンビが、2023年9月わが国においても承認され、12月の発売以降、臨床での使用が広がっている。レケンビはアルツハイマー病の原因物質であるアミロイドβ (Aβ) に対する抗体薬であり、早期アルツハイマー病の病態進行抑制が期待される。一方で、レケンビによる治療の意義に関しては個々の症例の状況と、臨床評価の解釈も含めて検討していく必要がある。本セミナーにおいては、レケンビの臨床データから期待される治療意義について解説するとともに、レケンビの登場によって生じる認知症医療の変化と、変わらないポリシーの重要性について演者の考えを紹介する。

ランチオンセミナー8 認知症 BPSD の理解と対応

11月22日(金) 12時00分~12時50分 (第2会場 1F 多目的展示ホール(B))

共催: 大塚製薬株式会社 メディカル・アフェアーズ部

座長: 岩坪 威 (東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野/

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所)

演者: 中村 祐 (国立大学法人香川大学医学部精神神経医学)

(概要) BPSD は認知機能低下を基盤に、身体的、環境的、心理的な要因の影響を受けて出現する。認知機能障害は神経細胞の減少と共に進行する一方、BPSD は症状の背景要因を見極め、適切なケアの実践により改善することが可能である。適切な対応として、①早期診断とその後の本人主体の医療・介護等を通じて行動・心理症状を予防する、②行動・心理症状が見られた場合にも的確なアセスメントを行ったうえで、適切な対応法について検討する、③薬物の対応が必要な場合には高齢者の特性を考慮する必要がある。そこで本セミナーでは、BPSD の評価と対応法について概説する。

ランチオンセミナー9 抗 Aβ 抗体を用いたアルツハイマー病診療におけるバイオマーカーの選択

11月22日(金) 12時00分~12時50分 (第3会場 1F コンベンションホール(A))

共催: 富士レビオ株式会社

座長: 三村 将 (慶應義塾大学予防医療センター)

演者: 井原 涼子 (東京都健康長寿医療センター脳神経内科)

(概要) 抗 Aβ 抗体であるレカネマブが2023年12月より実臨床で使用できるようになり、2剤目となるドナネマブの承認も見込まれる。抗 Aβ 抗体の適応評価のためには、アミロイドβ蓄積の有無を示すバイオマーカー検査が必須である。診療において、アミロイド PET と脳脊髄液バイオマーカーをどのように選択するのが良いか、また脳脊髄液バイオマーカーの実施・解釈における注意点について解説する。将来実用化されるであろう血液バイオマーカーへの期待についても触れたい。

ランチョンセミナー 10 高齢者不眠症の背景因子を紐解く～認知症への移行を見据えた治療戦略～

11月22日（金） 12時00分～12時50分 （第4会場 1F コンベンションホール（B））

共催：第一三共株式会社

座長：小原 知之（九州大学病院精神科神経科）

演者：小林 直人（医療法人湖山荘あずま通りクリニック）

（概要）近年の急速な高齢化に伴い、認知症をはじめとした高齢者のうつや不眠に対する適切な対応が期待されている。不眠については、うつ病や認知症患者に高率に合併しやすく、高齢者の認知機能や身体機能に影響の少ない薬剤選択が求められている。最近では、脳内グリアリンパ系の破綻やレム睡眠のメカニズムなど、睡眠と関連した脳内病理を促進させる因子に注目が集まり、認知症予防の糸口になる可能性が示唆されている。認知症に限らず、高齢者の精神症状を有する患者を適切に支援していく上では、専門職で構成された多職種チームの介入が欠かせない。今後は、チーム活動の枠を越えた、地域連携・医療連携の構築をより一層推進していくべきである。

ランチョンセミナー 11 アミロイド PET を用いたアルツハイマー病の臨床診断

11月22日（金） 12時00分～12時50分 （第5会場 3F 中会議室（A・B））

共催：日本メジフィジックス株式会社

後援：日本脳神経核医学研究会／日本核医学会

座長：小野賢二郎（金沢大学医薬保健研究域医学系脳神経内科学）

演者：澤本 伸克（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻近未来型人間健康科学融合ユニット）

（概要）アルツハイマー病を緩徐進行性高次脳機能障害、脳形態画像での進行性脳萎縮などで診断した場合の感度は71-87%、特異度は44-71%とされていた（Beach et al., J Neuropathol Exp Neurol 2012, Varma et al., JNNP 1999）。現在、アミロイドβ、リン酸化タウなどのバイオマーカーの臨床利用によって、臨床診断の精度は大きく向上している。しかし、陽性・陰性の判断に難渋する例や、脳脊髄液とPETのアミロイド病理所見の乖離例など、新たな問題に臨床家は直面している。本セミナーでは、こうした臨床的問題について議論したい。

ランチョンセミナー 12

11月22日（金） 12時00分～12時50分 （第6会場 4F プレゼンテーションルーム）

共催：南東北グループ

座長：岡村 信行（東北医科薬科大学）

1. アミロイドとタウ PET によるアルツハイマー病診断

演者：松田 博史（福島県立医科大学）

2. VR ゴーグルを用いた空間ナビ機能の測定による prodromal AD の検出とレケンビ治療の実際

演者：羽生 春夫（南東北グループ総合東京病院）

（概要）18F-NAV4694 を用いたアミロイド PET は非特異的な集積が少なく、高いダイナミックレンジを示す。また、18F-MK6240 を用いたタウ PET は、アルツハイマー病での3R/4R タウに特異的な集積を示す。これらのPETに、MRIを組み合わせた画像バイオマーカーを使ったアルツハイマー病診断を説明する。VR ゴーグルを用いて嗅内野機能としての空間ナビ機能を簡便に測定できる。本法がADリスクの高いMCI患者を検出でき、さらに認知機能障害の進行予測に役立つことを報告する。現在、レケンビ治療が開始されてまもないが、その実際や今後の課題等について議論する。

ランチョンセミナー 13 アミロイド関連画像異常 (ARIA) と脳アミロイド血管症

11月23日(土) 12時00分～12時50分 (第1会場 1F 多目的展示ホール (A))

共催: エーザイ株式会社メディカル本部/バイオジェン・ジャパン株式会社メディカル本部

座長: 川勝 忍 (福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座)

演者: 新堂 晃大 (三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学)

(概要) アルツハイマー病に対し抗 A β 抗体療法が臨床現場に登場し、認知症診療に新たな展開を迎えている。アミロイド関連画像異常 (ARIA) は抗 A β 抗体療法における重要な副作用であり、脳実質の血管性浮腫や脳溝への血清蛋白成分の漏出により主に MRI FLAIR 画像において高信号病変を呈する ARIA-E と、微小出血と脳表ヘモジデリン沈着により T2* 強調画像や SWI により低信号の病変を呈する ARIA-H に分類される。ARIA-E, ARIA-H の画像所見はそれぞれ脳アミロイド血管症関連炎症や脳アミロイド血管症に伴う出血性病変と共通性が報告されており ARIA 発症には炎症、補体の関連や血管透過性の亢進などの機序が挙げられる。脳アミロイド血管症の病態から ARIA について検討したい。

ランチョンセミナー 14 認知症の予防・早期診断・早期治療に向けた取り組みと課題

11月23日(土) 12時00分～12時50分 (第2会場 1F 多目的展示ホール (B))

共催: 大塚製薬株式会社 メディカル・アフェアーズ部

座長: 三村 将 (慶應義塾大学予防医療センター)

演者: 木村 成志 (大分大学医学部神経内科学講座)

(概要) 我々は、大分県臼杵市の認知症対策として医師会、介護、行政、大分大学医学部による多職種連携体制を構築して認知症の啓発、予防、早期診断・早期治療を継続してきた。2015年からは、ウェアラブル生体センサを用いた生活習慣における認知症リスク因子の発掘に向けた前向きコホート研究を実施し、高齢者の認知症予防における運動、睡眠、会話の重要性を明らかにした。また、医療機能の分化と連携により、かかりつけ医でのスクリーニングから専門医による診断・治療まで切れ目のない医療提供が可能となり、介護・ケアと協働することで介護負担が高く、予後にも影響する Agitation などの BPSD への対応レベルも向上した。

ランチョンセミナー 15 夢見た未来を超えて: 次世代認知症診療のその先へ

11月23日(土) 12時00分～12時50分 (第3会場 1F コンベンションホール (A))

共催: 日本イーライリリー株式会社 研究開発・メディカルアフェアーズ統括本部

座長: 岩田 淳 (東京都健康長寿医療センター)

演者: 島田 斉 (新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター臨床機能脳神経学分野/
量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究センター)

(概要) 2023年末、本邦で初めてとなる抗アミロイド β 抗体薬が臨床実装された。バイオマーカーを駆使した臨床診断を行い、脳病態へ直接介入する治療を行う—現在の認知症診療はまさに、我々がこれまで夢見続けてきた「未来」そのものである。現在、本邦では二つ目となる抗アミロイド β 抗体薬の保険収載も見込まれ、さらには臨床試験で有望な次世代の抗アミロイド β 抗体薬の開発も進行中である。2024年6月にはアルツハイマー病の改訂診断基準が発表された。本講演では、これまでの認知症診療と創薬過程ならびにそれを支えるバイオマーカー技術開発の歴史を振り返りつつ、我々が目指すべき「(かつての) 次世代認知症診療のその先」について考察する。

ランチオンセミナー 16 MIBG を活用した Prodromal DLB の早期診断

11月23日(土) 12時00分～12時50分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))

共催：PDR ファーマ株式会社

座長：小野賢二郎 (金沢大学医薬保健研究域医学系脳神経内科学)

演者：藤城 弘樹 (名古屋大学大学院医学系研究科精神医学)

(概要) アルツハイマー病 (AD) に対する抗アミロイド療法の登場に伴い、脳病態を的確に把握した臨床診断が日常診療で求められている。そのため、AD に次いで頻度の高いレビー小体型認知症 (DLB) の早期診断が重要となり、Prodromal DLB の臨床診断基準が作成された。レム睡眠行動障害や自律神経障害が DLB 発症にしばしば先行し、診断バイオマーカーとして、心臓交感神経脱落を反映する MIBG 心筋シンチグラフィーが明示されている。本講演では、DLB の早期診断にあたり、前駆症状としてのレム睡眠行動障害の病歴聴取と MIBG 心筋シンチグラフィーの有効活用について概説する。

ランチオンセミナー 17 認知症予防を目指した早期発見・早期介入と地域連携

11月23日(土) 12時00分～12時50分 (第5会場 3F 中会議室 (A・B))

共催：東和薬品株式会社

座長：橋本 衛 (近畿大学医学部精神神経科学教室)

演者：櫻井 孝 (国立長寿医療研究センター)

(概要) 認知症リスクとして高血圧、糖尿病などの生活習慣病、運動不足、社会参画の減少など多様な危険因子が指摘されている。認知症のリスク低減では、複数の因子に同時に介入する多因子介入が主流になりつつある。FINGER 研究の成功を踏まえ、わが国でも軽度認知障害を対象に J-MINT 研究が行われた。アドヒアランスの高い参加者では認知機能の低下が明らかに抑制された。また、多因子介入により高いレスポンスが期待できる高齢者の特性も明らかになった。今後、地域の介護予防やもの忘れ外来でも多因子介入が普及することが期待される。認知症発症前からのリスク低減を行える地域連携についても議論したい。

ランチオンセミナー 18 認知症医療における新しい画像の役割

11月23日(土) 12時00分～12時50分 (第6会場 4F プレゼンテーションルーム)

共催：株式会社エム

座長：松田 博史 (福島県立医科大学／一般財団法人脳神経疾患研究所南東北創薬・サイクロトロン研究センター)

1. ^{99m}Tc -ECD SPECT から $\text{A}\beta$ PET+ を予測する

演者：朝田 隆 (筑波大学／メモリークリニックお茶の水)

2. 脳ドックデータ大量解析から見える未病時の脳健康状態について

演者：森 進 (ジョーンズホプキンス大学放射線科／株式会社エム)

(概要) 認知症医療における医療画像の役割について、新しいアプローチを紹介する。最初の演題では、アルツハイマー病の疾患修飾薬には、高価な $\text{A}\beta$ PET をもとに脳内アミロイド β 沈着の証明が必要となるが、 $\text{A}\beta$ PET+ を予測する前段階として ^{99m}Tc -ECD SPECT に注目し、臨床データとの相関を解析した。2 題目では、未病段階での脳の健康状態の推移を大量の脳ドックデータから観察し、認知症前段階での脳の健康悪化の検出の可能性を試みた。これらの脳画像解析により、認知症前段階における介入や早期発見をより効果的に行う可能性について考察する。

【モーニングセミナー】

モーニングセミナー 脳内のアミロイドβ プラークを神経変性・血管障害双方の視点から考える

11月23日(土) 8時00分～8時50分 (第3会場 1F コンベンションホール (A))

共催：日本イーライリリー株式会社

座長：小野賢二郎 (金沢大学医薬保健研究域医学系脳神経内科学)

演者：猪原 匡史 (国立循環器病研究センター病院脳神経内科)

(概要) 脳は恒常性維持のため、アミロイドβタンパク (Aβ) などの排泄経路として、血管周囲排泄経路 (IPAD) やグリアンパティック系排出路 (グリアリンパ系) などを有している。IPADは、動脈拍動が駆動力となり、神経や血管のAβなどの老廃物の血管を介した排泄システムであり、血管の動脈硬化やアミロイドβプラークの沈着により病態は悪化する。グリアンパ系排泄機能低下については、加齢や生活習慣病との関連も示唆されている。本セミナーでは、脳内に蓄積するアミロイドβプラークについて、神経変性と血管障害双方ならびに炎症の視点から高血圧、生活習慣病さらには老化を含めて考察し、そのマネジメントについてまとめる。

【イブニングセミナー】

イブニングセミナー 1 地域で実践するレケンビ治療：早期介入とその診療連携

11月21日(木) 17時40分～18時30分 (第3会場 1F コンベンションホール (A))

共催：エーザイ株式会社/バイオジェン・ジャパン株式会社

座長：栗田 圭一 (東京都健康長寿医療センター認知症未来社会創造センター/
社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター)

演者：小原 知之 (九州大学病院精神科神経科)

(概要) 認知症の早期診断・早期介入の重要性はレケンビの登場を背景に近年、より一層高まり、新たな診療連携体制構築が喫緊の課題となっている。本セミナーでは、MCI疑い患者の専門医療機関への早期受診を企図したかかりつけ医と専門医療機関との連携について解説する。また今後は、専門医療機関での治療キャパシティーが飽和することが想定され、レケンビ初回投与6か月以降のフォローアップ施設との連携がより重要となる。本セミナーは新たな早期AD治療に必要な地域診療体制の構築について紹介するとともに本院でのレケンビの導入症例を例示し、実臨床でのレケンビ治療の実際について講演する。

イブニングセミナー 2 疾患修飾薬時代の認知症診断・治療・ケア

11月21日(木) 17時40分～18時30分 (第4会場 1F コンベンションホール (B))

共催：株式会社島津製作所

座長：島田 斉 (新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター臨床機能脳神経学分野)

演者：武地 一 (藤田医科大学医学部認知症・高齢診療科)

(概要) 2023年12月、日本においてもアルツハイマー病に対する抗Aβ抗体薬治療が開始となった。1999年のアルツハイマーワクチン治療の可能性の報告、2004年のアミロイドPETによる脳内アミロイドβ沈着の可視化等の報告を経て、研究者や企業の長年の努力が積み重なった結果、アルツハイマー病の根本原因への治療的介入が行われる時代となってきた。しかし、根本原因へのアプローチとなることで、診断と治療に際しては、アミロイドPET等によるバイオマーカーを駆使し、背景病理の混合や病的意義の少ないと予想される変化等も理解したうえでの対応が必要となる。また、抗Aβ抗体薬の対象にならなかった場合のケア的な対応も考えておくことが重要である。

イブニングセミナー 3 レケンビの登場を経て、診断後支援について再考する

11月22日（金） 17時40分～18時30分 （第3会場 1F コンベンションホール（A））

共催：エーザイ株式会社／バイオジェン・ジャパン株式会社

座長：繁田 雅弘（栄樹庵診療所／東京慈恵会医科大学）

演者：木下 彩栄（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻在宅医療・認知症学分野）

（概要）従来の認知症診療では、生活指導や抗認知症薬の処方、介護保険制度の紹介などの医療を提供してきた。しかしながら、外来診療だけでは情報提供は不十分になりがちで、診断後に適切な支援が受けられるまでの期間は平均1年5か月にもなるという報告がある。これを受け、本人と介護家族にタイムリーな心理的・社会的支援を提供し、支援までの空白期間を短くすることが重要視されるようになってきた。さらに、抗Aβ抗体薬の登場により、診断後支援の重要性がさらに増している。本セミナーでは、診断後支援についての文献・実践報告をもとにしながら、新しい時代の診断後支援の在り方について検討する。

イブニングセミナー 4 診療における SDM の重要性

11月22日（金） 17時40分～18時30分 （第4会場 1F コンベンションホール（B））

共催：日本イーライリリー株式会社

座長：川勝 忍（福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座）

演者：井原 涼子（東京都健康長寿医療センター脳神経内科）

（概要）医療において患者の価値観を尊重する社会的要請の高まりと、根拠に基づく医療（EBM）の普及を背景に、シェアード・ディジジョンメイキング（SDM）が注目されています。SDMは、医学的な情報や最善のエビデンスと、患者の生活背景や価値観など、医療者と患者が、双方の情報を共有し、意思決定を共にするプロセスです。医薬品や診断技術の進歩に伴い、遺伝子・病理診断検査や高額な治療費、重篤な有害事象のリスクなどを背景にした治療選択肢の説明と同意が、SDMに基づいた診察プロセスが求められています。本セミナーを通じ、SDMの目標である「当事者の Benefit や QOL を最大限にする」ために、日常診療の参考にしていただければ幸いです。